



トピックス

小中一貫教育推進室だより「TSUNAGU」では、子どもたちの様子や教職員の実践をもとに、市内における小中一貫教育をはじめとした連続・一貫した教育活動の状況を共有していきます。

枚岡中学校「ラグビー場を満員にするために」

夢TRY科「夢を追い求めるラグビー」では、ラグビーの魅力を生かしたまちづくりを進めている東大阪市のよさについて気づき、花園ラグビー場を満員にするための企画を考えます。

枚岡中学校では、それぞれで考えた企画を交流することで、プレゼンテーション能力を養う機会としました。その内容を見せてもらうと、どれもラグビー場に行きたくなる、わくわくするようなアイデアあふれるものばかりでした。

企画の中から学年の先生が数点選び廊下に掲示していたところ、子どもたちから「これって市役所に出すの?」「採用されたりするのかなあ?」と、期待感をもった声があったそうです。

ミッション 東大阪市のみりよくを生かして、ラグビー場を満員にしよう

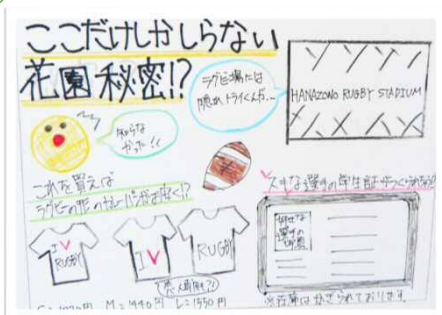
東大阪市内で行われているイベントには、私たちが喜ばず東大阪市のみりよくを伝えたいという思いがこめられています。
日本だけでなく世界の人に、ラグビーと東大阪市のみりよくをつなげてアピールし、ラグビー場を満員にしましょう。

発信の方法

- 東大阪市のラグビーのみりよくを見つけましょう。
- そのみりよくを生かして、ラグビー場を満員にする企画を考えましょう。
- まんざいやらし、意見文などで企画を発信しましょう。

夢TRY科テキスト P106-107 「夢を追い求めるラグビー」

これからの社会を担う子どもたちの声は、東大阪市の原動力となります。この小見出しには、選手がどちらに転がるかわからないラグビーボールを追うように、子どもたち一人ひとりが自分の夢を追い求めてほしいという願いが込められています。子どもたちが発信したものをどう生かしていくのか、市教委として今後検討していきたいと考えています。



企画名「サービス色々」

応援しているチームが勝てば、MサイズのドリンクがSサイズの値段で買えたり、試合中一番応援した人にサインボールがプレゼントされたりする。

企画名「ここだけしか知らない 花園の秘密」

ラグビー場に“かくれライくん”がいたり、提示するとカレーパンが安くなる好きな選手の学生証を作ることができたりする。



企画名「ラグビー大作戦」

3回来場でユニフォームプレゼント、5回来場で選手のサインプレゼント、10回来場で10分間試合に出場できる。



小阪中学校区『コロナ禍における一貫教育の新しいスタイル』

コロナ禍によって、GIGAスクール構想の実現など、教育に関して変化が見られる中、小中一貫教育においても新しいスタイルが求められています。

小阪中学校区の中学校登校は、コロナ禍によってやむなく縮小し実施されました。6年生にとって進学時に抱く不安が少しでも解消できるよう、新しいスタイルで取り込まれました。その一つが、タブレットを活用した「こさ中探検」です。例年、中学生になるとどのような場所でどんな生活をするのかを知るために、中学校教員が引率するのですが、今年度は、グループで1台のタブレットを持って、子どもたちだけで校舎内を探検しました。

探検中、小阪中学校の様々な情報を集めるために、校舎内の様々な場所を熱心に探る子どもたちの姿がありました。その様子を見ていた中学校の先生は、興味を持つ場所が新鮮で、子どもたちだけで活動しているからこそその姿だと感じたそうです。



探検して気になったところを撮影



教室をのぞいて授業を参観

その後、不思議に思った点や小学校とのちがいを、ロイロノート・スクールの様々な機能を使ってプレゼン交流しました。そこでは、部活動や行事を楽しみに感じた子がいる一方、中学生が受けている授業内容の難しさから、ついていけないか心配に感じる子もいました。タブレットを効果的に活用したことによって、進学に対しての期待や不安を友だちと共有できました。さらに、主体的に学習できたことによって、今後の学習に向かう意識につながることもになりました。

このように、各中学校区の取組みの様子から、それぞれの工夫や努力によって、限りある時間に重みを持たせた小中一貫教育の取組みが、コロナ禍における新しいスタイルとして進化したことがうかがえます。



探検して気づいたことを、「ロイロ」でプレゼン



小中一貫教育コーディネーター (Co)

『夢TRY科 タブレット化』

GIGAスクール構想の実現により、4月からすべての子どもが一人1台のタブレットを使って学ぶこととなります。夢TRY科においても、すべての小見出しでタブレットを活用した学習を求めています。指導書にある学習の流れは、板書を基本としております。夢TRY科のねらいは変わらず、深い学びにつ

ながる「探究的な学習」を行うためには、タブレットをどのように使えばよいのか、一貫室はCoとともに研究をしています。3学期は、その成果をもって4月からの実践に向けた活動を行っていきます。

夢TRY科でのタブレットの活用ポイントは、Coにどンドン聞いてね。

